様式(細則 5-2)

令和３年１１月２４日

浜田市議会議長　笹　田　　卓　様

議員名　芦　谷　英　夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため（視察・研修）を（実施・受講）したので、その結果を報告します。

記

１、期　　日　　令和３年１１月１３日（土）１５時～１６時３０分

２、研修内容　　「新型コロナウイルス研究最前線
～疫学・ウイルス学・対策研究～」

３、研 修 先　　広島市（広島大学）

４、調査経費　　交通費　５，４４０円

５、調査研究活動の概要　　別紙のとおり

浜田市議会 受付 3.11.24

「新型コロナウイルス研究最前線～疫学・ウイルス学・対策研究～」出席のため

令和３年１１月２４日

１　日　　時　　令和３年１１月１３日（土）１５時～１６時３０分

２　場　　所　　広島大学 廣仁会館（広島市）

３　概　　要　　「新型コロナウイルス研究最前線～疫学・ウイルス学・対策研究」

広島大学 田中 純子教授、坂口 剛正教授、久保 達彦教授

４　講演要旨

① （田中純子教授）広島県内の調査では、２回ワクチン接種で中和抗体獲得９９・９７％、１回接種で９５・２％との結果が出ており、接種後３か月で抗体保有率が下がることが確認されており、３か月経過すると次の接種を行う必要がある。

② 感染源、感染経路、濃厚接触の３つが揃うと感染拡大する、３５％エタノールで完全に消毒できる、石けん、藻類由来レクチン、クロラス酸、亜鉛素酸なども消毒に効果が認められている。

③ （坂口剛正教授）新型コロナウイルスの治療薬の研究を行っており、新型コロナウイルスの増殖を促す酵素に着目し、酵素の働きを抑制する化合物を開発し、化合物を治療薬の開発につなげられるよう研究を進め、点滴のほか錠剤などの実用化も検討している。

④ ３回目のワクチン接種が始まるが、来年以降４回目、５回目とワクチン接種がインフルエンザの予防接種のようになるのではないか、年内には９０％以上の確率で感染予防、重症化予防の効果のある飲み薬が承認され、ワクチンと飲み薬などコロナと共生する時代となり、それに対応できる地域医療が必要となる。

⑤ 抗ウイルス剤の開発が進められている、阻害剤は感染しにくくなる、喫煙者は効果が下がる、胃潰瘍の薬も効果が下がる。

⑥ 重症化する因子の研究が進められているが、世界的に見るとヨーロッパ、インド、オーストラリアなどネアンデルタール人の因子が濃く残っているところで重症化しているとの報告がある。

⑦ （久保達彦教授）コロナ感染の疑いの人があった場合、聞き取り調査、濃厚接触者の特定、感染者の状況に応じて、入院、宿泊療養、自宅療養など振り分けを決定し、感染拡大防止を徹底するが、かかりつけ医、救急隊員、保健所職員などで同じ調査項目、調査様式の徹底など、関係機関などの連携と情報の共有の仕組みをつくる必要がある。

５　質疑応答で明らかになったこと

① コロナ感染予防対策は、データとそれを分析する能力が急がれ、必要な情報を収集、集約するシステムの改善が必要であり、流行の初期段階を捉えて解析し、有効な対策を検討するのには基礎データが必須となる。

② ワクチン接種で増えた抗体は、体に入ったウイルスの増殖を防ぎ、これまでの研究で抗体の量はワクチンを２回打って２週間経ったころが最も多くなり、その後減り、３か月経つと４分の１程度になるとの報告がある。

③ 抗体検査には抗体の量を測る検査と、抗体の有無だけが分かる検査キットがあり、ともに所要時間は１０～３０分程度で、市販のキットは主に感染歴を調べるものであり、ワクチンの効果を評価するものに適していないものが多い。

④ 保健所の濃厚接触者追跡機能は、一層高める必要があり、入院調整は保健所主体ではなく、地域医療に通じた医師に任せ、それをネットワーク化することで感染拡大の状況が把握でき、保健所内外の業務内容の見える化なども必要である。　　―以上―